

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	ブロッサムジュニア津田沼教室 児童発達支援		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 20日		～ 2026年 2月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	16名	(回答者数) 16名
○従業者評価実施期間	2025年 2月 20日		～ 2025年 3月 1日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9名	(回答者数) 9名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 4月 30日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別療育と集団療育の両方を実施 個別療育は部屋を分け、一対一で落ち着く環境で取り組み、苦手なことにも挑戦しやすい環境づくりをしている。	個別療育では一人ひとりの得意・苦手・特性を理解し、落ち着いて取り組める環境づくりを行っている。また、様々な課題を提供し、子どもたちの成長を促している。集団療育では活動プログラムを40個程作り、様々なことを経験できるように支援している。	個別療育・集団療育だけではなく、小集団療育の活動を取り入れ、友だちと協力する楽しさや悔しや、達成感等を共有出来る支援を取り入れていく。
2	一人一人の特性の理解 AIを活用し一人一人の得意なこと・苦手なことを把握し根拠のある支援の提供。	AIを活用することで、得意なこと・苦手なことがグラフで提示できるため、保護者にも分かりやすく丁寧な説明ができる。また、特性を保護者と共通認識にすることで、支援者と保護者間の認識の差を埋めることが出来ている。	支援をを重ねていくことで、グラフの伸びを実感できるように支援していく。また、日常では気が付かない成長を保護者に伝えることを意識して行っていく。
3	言語聴覚士の在籍	言語聴覚士が在籍していることで言葉へのサポートを丁寧に出来る。また、職員が支援方法を学び多くの利用児のサポートを行うことが出来ている。	保護者から家庭でもできる言葉のサポート方法を知りたいとよく連絡をいただくので言語聴覚士との個別面談計画を立て、より保護者と連携を図れるようにしていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	人員不足や経験の浅さ	はじめて障害福祉の仕事にかかわる職員も多く、育成する職員も経験が不足している。人手不足もあり、教える時間や研修を受け学ぶ時間の確保が難しい。	外部研修やケース会議を取り入れ、障害への理解や専門的知識の向上を目指していく。職員の補充を行い、余裕のある環境で職員の学ぼうとする気持ちを育てていく。
2	関係機関との連携	保育園や幼稚園・学校などに送迎を行っている為、先生に引き渡すことが多々ある。その際、先生も忙し為中々様子を伝えることができない。また、保護者から先生にも支援方法を教えてくださいとお話がある事もあるので、連携の大切さを実感している。	関係機関に積極的に働きかけ、日々の様子をこちらから伝えたり、困っている行動を共有したりコミュニケーションを取りながら信頼関係を構築できるようにしていく。
3			